

地域金融機関への 高橋昌裕からのYELL

エール

VOL.
29

新型コロナ禍での対応に頭が下がるばかりです

緊急事態宣言の延長

昨日（5/4）、新型コロナウイルスにともなう「緊急事態宣言」の延長が正式に発表されました。マスコミやネットを見ると、これまでの種々の対応について、不平不満を言っている人もいますが、誰かを責めても虚しくなるだけです。それぞれが、それぞれのポジションで最善の判断をしてると信じて、「想定よりも好転が早くなりました」「全員の頑張りの成果です」となるよう、頑張ってください。私たちなら、やれば必ずできるはずですよ！

皆さまの活動に頭が下がるばかり

経済に目を転じると、景気の急速な悪化は不可避であり、新型コロナによる倒産はもとより、事業の継続を断念し廃業を選択する経営者が増えてしまうことが危惧されます。

5月一杯の自粛というのは、その後の立ち上がりに要する期間も考えると本当にギリギリでギリギリでしょう。

そうした状況下、自らの罹患への恐れもあるなかで、存続すべき地元の企業を守るために、心が折れかけている経営者を勇気づけるために、地元で暮らす人の生活への不安を解消するためにと、日々活動をされている地域金融機関の皆さまには、頭が下がる思いしかありません。

まさに前代未聞の大変な対応が求められるなか、私はただ皆さまにエールをお送りすることしかできませんが、心から感謝と応援を申し上げます。

起きてしまったのだから活かす思考で

さて、どうしても時節柄マイナス思考になりがちではありますが、私は、心の師匠（メンター）の一人から、「起こったことは、すべていいこと」というマインドセットを授けられてきました。新型コロナ禍も、起きてしまったのですから、（無理やりかもしれませんが）ポジティブに捉えてみませんか。

世間の目が変わった

今回の対応をキッカケとして、各地域において地域金融機関の必要性、身近さ、ありがたさが再認識されることは間違いないでしょう。

Beforeコロナ（BC）では、ややもするとマイナス面ばかりを強調されたマスコミ報道等をうけて、地域金融機関にはツライ状況もあったと認識しています。しかし今は、頼れる不可欠な存在と誰もが認識しています。世間の目が一気に変わりました。

職員の前向きな思いに火が付いた

取引先の経営者に寄り添い、目先の資金繰りだけではなく、Afterコロナ（AC）を見据え一緒になって事業の今後を考える機会が増えました。

「経営者に寄り添う」「資金繰りを支える」「事業の今後を一緒に考える」、これらは地域金融機関に入った行（職）員が、やりたかったことそのものはずです。親交のある中堅行員の方は「銀行に入って以来、今が一番、お客様のことを

真剣に考え、真正面から向き合っている。大変だけど、やり甲斐を感じている」と言っていました。

新型コロナが、行（職）員がもともと持っていた前向きな思いに火をつける機会を与えてくれた、と捉えることができるのではないのでしょうか。

変化を遂げる千載一遇のチャンス

さらに、新型コロナは、地域金融機関自身の「非連続」な進化を遂げるチャンスになり得ます。今は、緊急事態宣言下、これまでとは違う態勢（少ない人数・対面接触機会の低減、等）で業務を推進しています。新型コロナによって、いままでの当たり前（店舗・部署の人数、業務運営方法、業務プロセス、優先順位の判断etc）が、次々と壊れているはずです。

これは、BC時代に「変わりたいけど、変われない」という、地域金融機関が抱いていた悩みを、一気に解決するチャンスではないのでしょうか。

BC時代は、皆さんが変えたくて仕方がなかったことが満載だったわけですから、間違ってもACに向けて、BCの状況に戻す思考にはならないでください。新型コロナは、銀行業務の進め方を爆発的に変える、黒船級のインパクトを持っています。せっかくなので、良い方向に利用しませんか。

AC時代の地域金融機関

緊急事態宣言が解除されても、新型コロナの影響が長く続くのは間違いなさそうです。

ACと表現しましたが、実態はWithコロナであり、新型コロナと共存の世界を創っていくことが求められます。

すなわち、新型コロナに耐えながら不自由な日々を過ごすのではなく、新たな価値観・様式のもとで新型コロナがあるなかでもイキイキ・ワクワクできる日常を創っていく必要があります。AC時代は、BC時代とはガラッと世界が変わるでしょう（余談ですが、前述のメンターがWithコロナだと略称が「WC」となりトイレみたいなので、ACを使おうと提唱していたので倣いました）。

そんななかにあって、AC時代の地域金融機関はどのような進化を遂げるのでしょうか。業務の進め方といった狭い範囲だけでなく、もっと根本的・抜本的なものとして、AC時代の地域金融機関の姿を皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

いずれにしても、今は目の前のお客様を守るために全力で挑まれていることと存じます。皆さまの活動に最大限の敬意を表します。

以上、高橋昌裕からのYELLでした。

弊社HPでもご覧いただけます

弊社ホームページでPDF版をダウンロードできます。

(https://braveyell.co.jp/news_letter/)

また、不定期発行のため「更新のお知らせ」をメールでお受け取りいただくことも可能です。発行後、タイムリーにご覧になりたい方は、ご利用ください。

【発行・文責】

BRAVEYELL株式会社 (ブレイブエール)

代表取締役 高橋 昌裕

住 所：〒104-0061 東京都中央区銀座7-11-3
矢島ビル8階

メール： takahashi@braveyell.co.jp

電 話： 03 (3573) 0131

業務内容：

- ・経営コンサルティング
- ・エグゼクティブ・パートナー
- ・研修、ワークショップ、講演

著書：

- ・「ザ・地銀」
- ・「実践！『現場営業力』強化セミナー」
- ・「ゴールベース法人取引」